

詠む広場

毎 日 俳 壇

小川 軽舟選

宝石屋に寝められし首日脚伸ぶ

ドイツ 広谷 朝子

△評▽ネックレスの似合うきれいな首だと寝められたのだ。日が伸びて街はまだ明るい。首をすっと伸ばして歩き出す。

春暑しアツアンタムに葉水する

神戸市 細井 紗良

△評▽部屋の観葉植物も日差しが暑そうだ。「葉水」という言葉がみずみずしく聞こえる。

朧夜の波音低し倉庫群

神戸市 松元 一師

終電の去りし闇夜に花明り

東京 佐々木俊彦

春惜しむエンドロールを最後まで

倉敷市 中路 修平

周防灘見晴らす下校山桜

芦屋市 瀬々葱坊主

懐を横切るダンブ山笑ふ

千葉市 青山希久子

鶯や取り柄無き身を悲嘆せず

小平市 岡崎よし子

海見えて遠足の列走り出す

浜松市 久野 茂樹

飛行機雲大瑠璃の声のびやかに

島田市 沢田 嘉乃

西村 和子選

ふらふらの揺れまだやまめ暮色かな

浜松市 久野 茂樹

△評▽乗り捨てられたブランコの揺れと、暮れきらぬ空の余情が、余韻となって心に残る。春の夕暮れならでは季節の感情。

休日町のしづけさ花楓

西宮市 平田 あい

△評▽カエデの花は葉陰にうつむいて咲く目立たない存在。休日の落ち着いた町にふさわしい。

風音は嘆きの声か梅若忌

志木市 谷村 康志

行く春へ歩み揃へてフラミンゴ

浜松市 野畑 明子

だらだらと過ぎる間に花は葉に

奈良 高尾山 昭

木肌粗き幹に手を置き春惜しむ

岡山市 三好 泥子

早起きの夫を待たせて旬飯

小田原市 林 梢

のどかなり夫婦二人で立つ厨

仙台市 鎌田 傑

碗豆を剥く妻母に似てきたり

神戸市 岸下 庄二

風光る同じ歩幅のペアルック

伊丹市 稲本真由美

井上 康明選

昔男ありて恋せし杜若

相模原市 はやし 央

△評▽伊勢物語には「昔男ありけり」で始まり、都の恋人をカキツバタにかけて詠うくだりがある。眼前の花にいにしへの物語を思ふ。

黄の証赤の柏の芽吹きけり

横浜 斎藤 山葉

△評▽マサキもカシワも広葉樹。その芽はほのかな黄色と赤であり、芽吹きの色に春の勢いがある。

句作りは命の光老の春

富士市 後藤 秋臣

眼裏に炎残りし野焼かな

西海市 まえだいっそう

ぼうたんを見に来いと言ふ禅坊主

奈良市 上田 秋霜

本家には娘が二人桐の花

東京 石川 昇

陽炎や海へ十里の道祖神

須賀川市 伊豆 周治

惜春や缶蹴りのカン忘れられ

川越市 大野有之介

街角に白き花浮き五月来ぬ

相模原市 小山 鞠子

夜桜や人みな星の瞳して

市川市 吉住 威典

片山由美子選

若布干す光の中の遍路道

和歌山市 藤池 芳子

△評▽干したワカメが風に吹かれて光っている光景はいかにも鳴門の春らしい。しばらくは海に沿った遍路道。主たる季語は「若布」。

うすうすと蒲公英の絮風を待ち

甲府市 奥野 節子

△評▽ふわふわのタンポポの穂綿が飛び立ちたくてうすうすしているという発想が楽しい。

山頂へエスカレーター風五月

和歌山市 武友 朋子

小手毬の少しゆるるを切りにけり

下松市 井藤 黎子

若草やジーンズの裾折り曲げて

前橋市 木下美樹枝

若駒の駆くる河畔や川下り

那須塩原市 谷口 弘

石庭の石に日のある暁日かな

北九州市 宮上 博文

葉桜や石垣だけの岡城址

奈良市 上田 秋霜

万緑や水面に映る彦根城

那珂市 小宅 進

病室の窓よりみおろすさくらかな

周南市 池田代志美

伊藤 一彦選

米川千嘉子選

加藤 治郎選

水原 紫苑選

アプリで 推し短歌

短歌アプリ「57577」の投稿からユーザー人気をふまえて歌人の天野慶さんが選歌と評を担当します。金3首、銀3首を掲載し、他の選歌はアプリ内で紹介します。アプリは右のQRコードから。



短歌 アプリ

57577



お題「空」(投稿数1200首)

空室と書かれたドアの向こうには部屋 北野白熊
いっばいの青空がある
アパートの壁に掛けられた「空室」のプレート。今まではスルーしてしましたが、この歌を読んでからは、ドアの向こうに青空の広がる、秘密の入り口の存在を教えるしるしに変わりました。
・ため息をひきずるように歩いては空き缶もまた夜をこぼして ノウセイ十
けっして明るい気持ちではありませぬ。全身がだるくて重たくて。上の句から伝わるしんどさに空き缶も共鳴します。でも歩いた跡に残るのが「闇」ではなく「夜」だから、やがて朝は来るのです。
・レジ袋透かして届く夕焼けをひとり分だけ持ち帰る道 三笠山出月
たっぷりとした赤い夕焼けをポリ袋ですくい取ったようです。ひとり分の小さな夕焼けだけど、家についてからもまだほんのり光を残している。袋の中身も日の光につかってなんだか幸せそう。
・腹にいたるまだ飲み込める大ききのみより空豆に似た胎児 花屋沙夜
よるこびもかなしみもみな受け入れて空どこまでもからっぽのまま くじらうち
・人生を悩み憂う日は空はバカみたい 眩しがる傾向
にただ澄んでいて

次回のお題「雨」(6月22日掲載)